

学校の概要（平成15年4月現在）

学 校 名	門川町立 草川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学 級 数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童生徒数	49	60	70	66	63	67	1	376	

研究の概要

1. 研究主題

分かる喜びを実感し，生き生きと学習に取り組む児童の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数科（算数は学年が上がるにしたがって苦手意識をもつ児童が増え，さらに学力の個人差が顕著に表れてくる教科であるため）

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 算数科における指導方法・指導体制の工夫と基礎学力の定着を図る補充指導の確立</p> <p>仮説 算数科・日常指導において，児童の実態を把握し，個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図るとともに，基礎学力（読み・書き・計算）の定着を図る補充指導のあり方を確立していけば，分かる喜びを実感し，生き生きと学習に取り組む児童が育成されるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>【発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「数と計算」の領域における発展的な学習の問題作成 ・ 算数的活動における教材教具の開発 <p>【理解や習熟の程度など個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交換授業の実施（第5学年は社会と家庭科・書写，第6学年は音楽と図工で実施） ・ 数と計算の領域に関する実態調査の実施 ・ 基礎学力「読み・書き・計算」の定着を図る朝自習指導のあり方 ・ 少人数指導のよさを生かした指導過程のあり方 ・ 児童の理解を深める上で効果的な算数的な活動のよさと問題点の明確化 ・ 1単位時間の学習過程の確立 <p>【児童の学力の評価を生かした指導の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導と評価の一体化を目指した授業づくり ・ 評価規準の作成（『数と計算の領域』） ・ 学力検査の実施と分析及び指導法の改善 ・ レポートをもとにした授業の展開と支援に役立つ個人カードの作成 <p>【連携（学校・家庭・地域，学校間）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参観日における少人数指導の参観授業の実施 ・ 本校研究への取組や学習の様子を紹介した新聞の発行（『草っ子』） ・ 保護者のアンケートによる学校評価への参加 ・ 町内教職員，区長，民生児童委員を対象とした研究授業の公開
----------------	--

平成15年度

テーマ
指導方法・指導体制の工夫改善及び個に応じた指導のための教材開発と評価のあり方

仮説
算数科・日常指導において、児童の実態を把握し、基礎・基本の定着を図るための効果的な指導方法や指導体制の工夫改善を図り、個に応じた指導や評価を行えば、分かる喜びを実感し、生き生きと学習に取り組む児童が育成されるであろう。

- 研究内容・方法
- 【発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発】
 - ・ 発展的な学習や補充的な学習に関する教材開発（問題集作成）
 - ・ 算数的活動を行う際、活用できる教材の開発
 - 【理解や習熟の程度など個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善】
 - ・ 一部教科担任制の導入
 - ・ 基礎学力の定着を図る場の設定の工夫
 - ・ 基礎基本の確実な定着を実現するための教材研究のあり方
 - ・ 個に応じた指導を行うための習熟度別・課題別学習等のあり方
 - ・ 学ぶことの意義の理解と個を認め合える豊かな人間関係づくり
 - ・ 少人数指導のよさを生かした指導過程のあり方
 - 【児童の学力の評価を生かした指導の改善】
 - ・ 少人数指導等における評価のあり方
 - ・ 評価規準の作成（『算数科全領域』）
 - ・ 学力検査の実施及び結果分析を踏まえた指導法の改善
 - ・ 児童のよい点や可能性、進歩の状況などを重視した評価のあり方
 - 【連携（学校・家庭・地域，学校間）】
 - ・ PTA，地域参加型の学力向上委員会の設置
 - ・ 参観日における少人数指導や習熟度別学習等の参観授業の実施とアンケート調査
 - ・ 地域や小・中・高校の先生方を対象とした研究公開の実施
 - ・ 本校研究への取組や学習の様子を紹介した新聞の発行（『草っ子』）
 - ・ 本校の研究の取組を紹介したホームページの作成

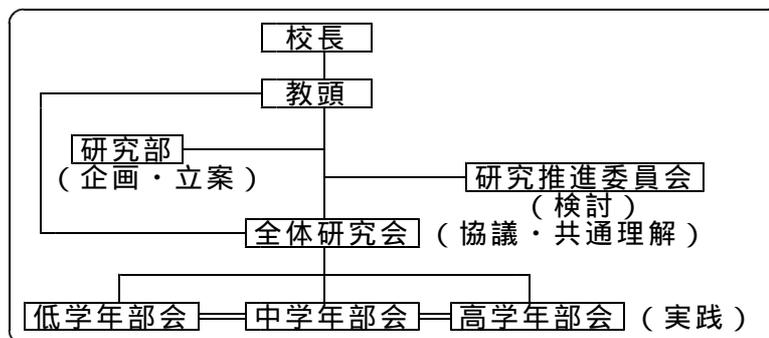
平成16年度

テーマ
確立した指導方法・指導体制や評価を生かす学習指導法の研究

仮説
算数科・日常指導において、確立した指導方法・指導体制を積極的に取り入れるとともに、児童の実態や学習意欲を重視した評価を生かす学習指導法の研究を行えば、分かる喜びを実感し、生き生きと学習に取り組む児童が育成されるであろう。

- 研究内容・方法
- 【発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発】
 - ・ 教材教具の開発後の反省を生かした教材教具の工夫改善
 - ・ 発展的な学習や補充的な学習のための問題集の見直し
 - 【理解や習熟の程度など個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善】
 - ・ 基礎学力の定着を図る場の設定と手だての見直し
 - ・ 基礎基本の確実な定着を実現するための教材分析の改善と確立
 - ・ 個に応じた指導を行うための習熟度別・課題別学習等の改善と確立
 - 【児童の学力の評価を生かした指導の改善】
 - ・ 少人数指導や習熟度別等における評価の確立
 - ・ 評価規準の見直し及び修正
 - ・ 学力検査の実施と分析及び指導法の改善
 - ・ 児童の意欲と学習過程の進歩に着目した評価のあり方
 - 【連携（学校・家庭・地域，学校間）】
 - ・ 参観日における少人数指導や習熟度別学習等の参観授業の実施
 - ・ 地域や町内の幼稚園，県下の小学校・中学校・高校の指導者を対象とした研究公開の実施
 - ・ 本校研究への取組や学習の様子を紹介した新聞の発行（『草っ子』）
 - ・ ホームページの更新及び作成

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

【個に応じた指導のための教材開発】

発展・補充プリントを作成し活用したことにより、児童の学習意欲を高めるとともに、個々の児童の学習状況に応じた指導に役立てることができた。
本時目標到達のための手だてとして児童の興味関心等を踏まえた教材教具を作成し活用したことにより、児童の学習意欲をかきたてるとともに、実感を伴う理解を促すことができつつある。

【個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫改善】

単純少人数指導や習熟度別指導を取り入れたことにより、児童一人一人にかかわる時間が増えるとともに、児童がどこでつまづいているのかを的確に把握することができ、きめ細かな指導を行うことができた。
単純少人数指導や習熟度別指導を取り入れたことにより、習熟の差が大きく広がらずに授業が進み、励ましの声かけや個に応じた指導を通して児童にできる喜びを実感させることができつつある。
理科専科、音楽専科が少人数指導担当に加わったことにより、2年生以上のすべての学年において少人数指導を推進することができた。
個々の教師の専門性を生かした指導を展開するために一部教科担任制に取り組んだことにより、児童の意欲を高める魅力ある授業が創造できるようになるとともに、学習指導や生徒指導をよりきめ細かに行うことができるようになった。

【学力の評価を生かした指導の改善】

算数科全領域の評価規準を作成したことにより、評価規準を意識した指導（指導と評価の一体化）ができるようになってきている。
基礎学力に関する到達目標等を位置づけた個人力カードを作成したことにより、個々の児童の定着状況を次年度へ確実に引き継ぐとともに、指導者側の反省材料として活用することができた。
学力検査結果を分析することにより、2学期以降の単元等において何を補充していかなければならないかが明確になるとともに、具体的な指導を意図的計画的に行うことができるようになった。

【連携（学校・家庭・地域、学校間）】

保護者の協力で読み聞かせの会「どんぐりの会」が発足したことにより、児童に本の楽しさを味わわせるとともに、読書に対する親しみをもたせることができつつある。
夏季休業中に本校職員が各地区公民館に出向いての勉強会を実施したことにより、1学期学習したことがあまり定着していないと思われる児童を対象に補充指導を行うことができた。
家庭学習における実態調査を行ったことにより、保護者に発信していかなければならない情報の視点が明確になった。

【その他】

学力検査結果（4月実施）の結果は下記の通りである。

- 【2年生】 数と計算は全国比90、量と測定は全国比86、図形は全国比82だった。
- 【3年生】 数と計算は全国比84から103へ上昇、量と測定は全国比92から94へ、図形は全国比78から94へ上昇した。
- 【4年生】 数と計算は全国比102から106へ上昇、量と測定は全国比104から103へ、図形は全国比100から116へ上昇、数量関係は全国比108だった。
- 【5年生】 数と計算は全国比95から117へ上昇、量と測定は全国比95から109へ上昇、図形は全国比100から107へ上昇、数量関係は全国比99から103へ上昇した。
- 【6年生】 数と計算、量と測定、図形、数量関係の4領域とも大きな変化はなかった。

2. 今後の課題

1 単位時間のきめ細かな授業をより充実させていくために、教材教具の一層の充実や指導者の弾力的な運用（少人数指導とT・Tとの組み合わせ等）を考慮した指導体制の確立など、授業のあり方をさらに工夫改善していく余地がある。一部教科担任制を実施して出てきた課題を克服するための具体的な方策を明確にすることにより、より充実した一部教科担任制が実現できるようにしていく必要がある。

アンケート調査により、家庭学習について保護者に発信していかなければならない情報の視点が明確になったので、参観日や学校便り等を活用しながら機会あるごとに保護者の必要とする情報を提供していかなければならない。

幼稚園（保育園）、中学校、高等学校や家庭、地域との連携という点では、研究公開以外に具体的な手だてがなかったため、次年度はこの点を研究の大きな柱として取り上げ、学校・家庭・地域が一体となった学力向上が推進していけるように工夫していく必要がある。

本校の実践研究を通して得られた成果と課題を広く公開するために、ホームページの作成が急務である。

学力等把握のための学校としての取組

- 1 定期的な学力検査の実施（第2学年～第6学年を対象）
 調査の目的・ 個々の児童の前学年までの学習内容の定着状況を把握することにより、未定着の内容を意図的計画的に復習するなどして個々の児童のつまずきに対応できるようにすることを目的として行う。
 実施内容・・・ 算数，国語の2教科
 時期等・・・ 年1回（4月に実施）
- 2 小学校基礎学力調査の実施【県研修センター作成】（第3学年・第5学年を対象）
 調査の目的・ 個々の児童の現学年における学習の定着状況を把握することにより、個に応じた指導の一層の充実を図ることを目的として行う。
 実施内容・・・ 国語，算数（第3学年）
 国語，算数，理科，社会（第5学年）
 時期等・・・ 年1回（10月に実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 研究公開を実施予定
 日時及び場所・・・ 平成16年2月20日（金）（本校，第2，3，5学年）
 テーマ 『分かる喜びを実感し，生き生きと学習に取り組む児童の育成』
 対象・・・ 東白杵教育事務所管内の小・中学校，県立高等学校，本校PTA等
 会の目的
 ・ 本校の「確かな学力」の向上のための実践研究を通して得られた成果を広く公開することにより，学力向上フロンティアスクールとしての役割を果たすことを目的として実施する。
- 2 フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績
 第2回東白杵地区学力向上協議会における研究成果の普及（発表会）
 第3回東白杵地区学力向上協議会における研究成果の普及（報告会）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級	
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他	
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無	